

地域リハビリ支援報告書

支援対象者) ○○ ○○様

居宅介護支援事業者) ○○居宅支援事業所 (○○ ○○様)

支援日時) 令和○年○月○日 ○時○分から○時○分

支援目的) 1. 臀部の褥瘡が完治しにくい、日常生活の中で要因があるか確認
2. ご本人の自立度とご家族の介護負担の様子の確認

支援者) 地域リハビリ推進室・デイサービスセンターつながる 木原
○○居宅介護支援事業所 ○○様

支援内容)

1. 臀部褥瘡の要因の確認

<1日の姿勢および活動の流れ>

- ① 6:30~ 7:30 ・起床、ベッドから隣のポータブルトイレに移乗 (自立)
・ズボンの上げ下げやパットを当てる (奥様介助)
・ポータブルトイレや車椅子で着替え (奥様介助)
ズボンは就寝時のスウェットのまま
- ② 7:30~ 8:00 ・車椅子で髭剃り→居間のテーブルで朝食 (自立)
→ポータブルトイレで排便 (奥様介助)
→ベッドに移乗し褥瘡ケア (奥様介助)
- ③ 8:00~14:00 ・車椅子で過ごし、居間のテーブルで昼食 (自立)
→ポータブルトイレ (奥様介助)
- ④ 14:00~16:00 ・居間のソファで横になる (体向き変え自立)

①



③



- ⑤ 16:00~21:00 ・車椅子で過ごし、居間のテーブルで夕食 (自立)
- ⑥ 21:00~23:00 ・居間のソファで横になりテレビを見る
→23:00 にベッドに移乗し、褥瘡ケア (奥様介助)

課題) 車椅子で5時間以上過ごす時間が1日に2度あり、臀部の圧迫持続による、血液循環の滞りが褥瘡の完治しにくい要因

検討) 褥瘡が完治しにくい状況では、2時間以上の車椅子座位は避ける (30分臀部の除圧)

10:00~10:30 ソファに横になる 18:00~18:30 ソファに横になる

※臥位は体が横向きであるため、褥瘡部には圧迫がかかっていない

2. ご本人の自立度とご家族の介護負担の様子の確認

①就寝後 2:30~3:00 のあたりで奥様がトイレ・寝返り介助を行っている

課題) 同上

検討) 上半身をしっかりと起こすことで、自分で寝返りは可能だが、冬は布団が重いため困難
→夏布団で軽くなったら自分で寝返りを行う機会を作る



②トイレでのご家族介助

課題) ポータブルトイレへの移乗は自立しているが、ズボンの上げ下げやパットのセッティングは自分では困難であり、奥様の介助が必要

検討) ポータブルトイレが動かないよう工夫
→左膝裏を便器の縁にしっかりと当てて立位保持安定
→片手でつかまりながら、もう片手でズボンの上げ下げをできるだけ自分で行う機会を作る



③自宅での入浴希望

・(ご本人) 夏場は汗をかくので清潔を保つためにも毎日お風呂に入りたい、お風呂に入れば、現在行ってもらっている褥瘡ケアの手間も省けると考えた

自分で工夫され、車椅子から浴槽内まで移動できるように努力されていた(要環境整備)

課題) 転倒リスクや洗身を考えるとご家族の介助が必要であり、奥様の身体的負担が大きい

検討) (OOCM) 夏場はデイの通所回数を増やし、風呂の回数を増やす方が得策である



※筋力がつき、自宅内の車椅子移動がスムーズになっていた

(OOCM) 奥様の介護負担を幾分か軽くするためにも、ショートステイの利用も検討を



特定非営利活動法人 地域福祉ネットワークいわき
地域リハビリ推進室 室長
デイサービスセンターつながる センター長
木原秀樹(理学療法士)